

I. 山形大学独自の取組

① 男女共同参画行動計画と推進組織

①-1 | 目的・基本計画・令和元年度具体的施策（行動計画）

●目的

山形大学は、「男女共同参画基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画社会実現のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画推進宣言（平成21年1月23日）」を策定した。本学の学生及び教職員が性別にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指し、具体的な施策の推進を図っていくため、ここに山形大学男女共同参画基本計画（以下「基本計画」という。）を定める。

●基本計画

基本理念の具体化に向けて、本学の基本方針を次のとおり定める。

- 1 教職員（教員及び職員）等の男女機会均等の実現・格差の是正
- 2 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
- 3 男女共同参画に関する意見・要望等をくみ上げるシステムの整備
- 4 男女共同参画への意識改革への促進
- 5 女性研究者（教員及び後期博士課程学生）の裾野拡大
- 6 男女共同参画推進のための教育・研究の実現
- 7 男女共同参画に関する学内の調査・分析・統計等の情報提供
- 8 男女共同参画に取り組む地域社会との連携

●令和元年度具体的施策（行動計画）

【教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正】

1 女性教員比率の向上

<全学>

- ・雇用機会均等法によると女性の割合が4割を下回っている場合、男女格差が存在していると判断される。本学においても女性教員比率を引き上げるとともに、格差の是正に努める。
- ・女性教員の採用比率を当面、全体として20%（「国立大学協会」の提言）以上とすることを目標とする。将来的には、女性教員の比率を25%まで引き上げる。

- ・上記の目標を達成するため、必要な改善措置等を男女共同参画推進室を中心に各学部等においても具体的に検討し、その達成状況を毎年点検する。

人文社会科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の女性教員の比率については現状の水準以上の値を実現できるように努め、さらに「国立大学協会」の提言である20%に近づけることを目指す。 ・業務の効率的・効果的に行う取り組みを引き続き行い、ワークライフバランスを充実させるための環境整備を行う。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員比率を20%にあげるため、学部ホームページ・マスメディア等を通じて本学部女性教員の活躍を積極的に広報する。 ・女性研究者の研究環境整備のための活動としてサバティカル制度を初めとする支援体制を充実させるとともに、これらの周知を図る。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブ・アクションを実施し、女性教員により一層積極的な活躍の機会を作り出す。 ・教員公募要領に男女雇用機会均等法実施の取り組みを明確に記載する。 ・理学部関連学会における「男女共同参画支援事業」の情報収集を続ける。 ・公募等における業績評価で、育児や介護期間を考慮することを明記する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の比率20%以上を維持する。 ・24時間保育所及び病児保育室の円滑な運営を通して、女性が働き続けられる環境の整備を行う。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教員公募にあたっては、雇用機会均等法第8条に配慮している旨を公募要項に明記するとともに、女性教員優先公募についても積極的に実施する。 ・研究分野の特性等を考慮しながら、女性教員2人以上の採用を目指し取組を進める。また、公募の際は、プログラム内の年齢バランス及び職位バランスを考慮し、人事委員会を中心に女性必要ポストの検討を行う。 ・女性教員の職位バランスを見直し現在計画中の平成30年度内部昇格公募を実施する。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者が多い分野を中心に、女性を優先した人事について検討する。 ・第3期中期目標、中期計画における女性教員比率の全体目標（17%）に近づけるよう努力する。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き高い女性教員比率を維持し、将来の定年退職の状況等も見据えつつ、教育企画部として40%以上となるよう教員採用を進める。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度以降についても、教員の採用に当たって、将来的な目標比率の達成を考慮して、引き続き県教育委員会等と協議する。 ・附属学校運営部が中心となって、勤務時間の適正化と女性教員の出産育児等に対応できる職場環境を整えるため、具体的な業務改善に向けた取り組みを実施する。

2 大学（学部）運営における女性参画の拡大

<全学>

- ・女性職員の人材育成のため、積極的な方策を推進する。
- ・女性教職員の管理職比率の向上のため、登用等を積極的に推進する。

人文社会科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進部との連携を強化する。 ・学部運営に関わる女性教員の比率を高めることに努める。 ・学部運営や学生の勉学環境に関する重要事項の決定に女性教職員の意見や視点が取り入れられるしくみを強化する。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学長・学部長と女性教職員との懇談会を実施し、女性教職員の要望や抱える問題等を明確化し、交流を図る。懇談会は効果を一層上げるために小白川キャンパスにおけるFD活動の一環と位置づけて、三学部共催で規模を拡大して行うこととする。 ・男女共同参画推進室のホームページやメールマガジン、ニュースレターを使って情報の周知を図る。 ・学部ホームページや広報誌「Creation」に活動状況を掲載し、学内外への情報発信を強化する。 ・メンター制度の積極的な活用を行うため、制度の周知と工夫を図る。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・当該委員会委員、キャリア教育担当教員、女性研究者及び一般男性教員も男女共同参画推進室主催のランチミーティング、セミナー等に積極的に参加し、女性参画事業の理解を深めるようにする。 ・学部の女性教員がそれぞれ、大学、学部、学科の重要な委員を担当する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・性別による優遇措置はとらないが、管理職として適切な人材を登用することにより、積極的に女性教員の活用を図っていく。副学部長は女性を含む体制を堅持する。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会等を実施することによって、雇用機会均等法の周知徹底を行う。 ・運営会議メンバーを中心に女性教職員の意見聴取を行い、学部運営に反映させる。 ・女性教員の「女性教員としての人材育成」のため、新任5年以内の教員（企業出身、博士課程出身者）に対するメンター制度の導入を図る。メンターとなってくれる教員や外部の適当な人物を組織し、女性教員が希望した時にはいつでも相談が受けられる体制づくりを行う。 ・ピア・メンターを活用するため、女性教員および若い女性研究者の卵たちによる座談会を定期的に開く。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性職員と女性教員を合わせた女性教職員の人材育成を、長期的な計画のもとで継続的に行う。 ・保育所利用に係る関係規程の整備など学部内手続きを整理し、更に女性が活躍できる環境を整備する。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き女性教員の登用拡大を図っていく。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度以降も、女性職員の人材育成に努め、係長以上への登用も積極的に進める。 ・校長・教頭への女性教員の登用について、山形県教育委員会と連携協力して推進する。

【男女共同参画への意識改革の促進】

〈全学〉

- ・シンポジウムや啓発セミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的に開催する。
- ・女性研究者ネットワークを構築し、定期的な勉強会等を開催する。
- ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的に開催する。
- ・ホームページ、男女共同参画ニューズレター、メールマガジン等による学内外への情報発信を強化する。

人文社会科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学部内で男女共同参画に関する問題意識を共有できるようにつとめる。会議等での決定事項が男女共同参画の視点からみて適切であるかどうかを考慮するほか、女性教職員の視点を入れて男性だけでは見落としがちであった事項を配慮できるような体制を確立するとともに、その体制について検証を継続的に行う。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムや啓発セミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的に開催する。 ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的に開催する。 ・懇談会は効果を一層上げるために小白川キャンパスにおけるFD活動の一環と位置づけて、三学部共催で規模を拡大して行うこととする。 ・ホームページ、オープンキャンパス、ホームカミング等による学内外への情報発信を強化する。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画事業に積極的に参加する。 ・「学長・学部長と女性研究者との懇談会」等を積極的に支援する。 ・育休について正確な情報を提供する等、議論を深め「育休取得希望者」を支援する。 ・「学長・理事と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」を小白川キャンパス全体で開催する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生を対象にしたキャリアパスセミナーにおいて、男女共同参画に関する内容を更に充実させる。 ・山形県、山形県医師会、女性医師ネットワークと緊密な連携をとり、男女両者が参加できる男女共同参画の企画を進める。 ・総合医学教育センター、高度医療人研修センターが中心となって女性医師・看護師が切れ目なく働き続けられるよう援助する。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進ワーキング・グループを強化し、ワーク・ライフ・バランス懇談会と同様の懇談会を工学部としてももう1件実施する。 ・運営会議を中心に、すべてのマイノリティが働きやすいキャンパス、学びやすいキャンパスを目指すための組織化を図る。 ・男女共同参画推進室の企画事業への職員参加を推進する。 ・キャンパス・ハラスメントに係る研修を継続して実施し、教職員の参加を促す。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進委員会及び男女共同参画推進室の指導の下に、農学部の委員が中心となり、30～31年度においても継続して、各部局の推進組織とも緊密に連携協力しながら具体的な事業を推進する。 ・引き続き、ワークライフバランス懇談会を実施し、男性教職員の積極的な参加を呼びかけ、女性だけでなく男性教職員の意識改革も併せて図っていく。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・教育企画部の企画による啓発セミナー開催を検討する。 ※留学生を講師に迎えた講演「子どもを連れて山大留学」等のテーマを検討する。 ・キャンパス・ハラスメント防止対策委員会主催研修会等においてセクシャルハラスメント等関連事例を取り上げる。 ・引き続きワーク・ライフ・バランス懇談会を開催する。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全学で企画するシンポジウム、啓発セミナー及び男女共同参画フェスタ等を周知して参加を促すとともに、平成30年度に附属学校における研修会等でテーマとして取り上げ、実施する。

【女性研究者の裾野拡大】

<全学>

- ・専門分野を活かした職業に就いている女性卒業生等を招いた講演会や交流会を、各学部等で定期的に開催する。
- ・女子中高生向けのセミナー等を開催する。

人文社会学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、男女共同参画担当の副学部長を中心に、男女共同参画を強力に推進する体制を確立する。その執行体制のもと、高校への出前講義などに女性教職員に携わってもらうことで、女子高校生に女性研究者の活躍を身近に感じてもらい、将来の大学進学における選択肢として研究職を選んでもらう努力を継続的に進める。 ・女性研究者、企業、官庁、教育界で活躍している女性の卒業生を招き、女子高校生・学部生・一般市民に向けての講演会などを開催し、人文学の専門分野を活かした職業について広く周知する。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、オープンキャンパスの際に行う授業や出前授業の際に、女性教員が参加して専門分野で活躍する姿を高校生に話してもらい、本学部の魅力を伝えていく。 ・オープンキャンパス及びホームカミングの際に、出産・子育て世代の女性及び男性教職員の姿をパネル展示する。 ・高校生を対象とした女性研究者による模擬授業やアカデミックキャンプ等を実施する。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野を活かした職業に就く女性卒業生等を招き、講演会や交流会を開催する。女子中高生向けのセミナー等を開催する。 ・上記の他、女性研究者によるセミナー等を開催する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度までの事業をさらに充実させる。 ・24時間保育、病児保育など子育てと研究が両立する環境を生かし、多くの研究者等を受け入れる。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者の育成を目指し、女子学生と各世代の女性研究者とが触れ合う場を定期的に設ける。 ・本学バイオ化学工学科においては、女子学生数が男子学生数を上回っている等、女子学生においても積極的に教育・研究活動に挑戦できる体制が整っている旨のPRを広報活動をとおして実施する。 ・オープンキャンパスにおいて、工学部でも女性研究者や女子学生が積極的に活躍している点を積極的に紹介する。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者育成のための講演会を継続して実施し、女子学生の進学率の向上に努める。 ・女子高生に科学実験の体験指導を継続的に行い、農学部への進学率向上に努める。
学士課程 基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」の講師を山本美奈子講師がつとめる。 ・フィールドワーク等の授業に、県立博物館、教育委員会等で専門を生かして活躍している女性卒業生らを招聘、交流を図る。 ・留学生懇談会に、講師として日本で働く留学生OGや研究する留学生OGを招く。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で実施される講演会や交流会に積極的に参加・協力できるようにする。 ・女子中学生を対象とするセミナー等については、附属中学校で企画立案し、周知する。

①-2 | 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事

平成31年4月1日現在

委員名	氏名	備考
第 1 号 委 員	阿 部 宏 慈	委 員 長
	久保田 功	
第 2 号 委 員	河 野 銀 子	
第 3 号 委 員	コーエンズ久美子	
	中 西 正 樹	
	金井塚 勝 彦	
	齋 藤 貴 史	
	野々村 美 宗	
	村 山 秀 樹	
第 4 号 委 員	藤 田 稔	
	藤 岡 久美子	
	常 松 佳 恵	
	櫻 田 香	
	高 澤 由 美	
第 5 号 委 員	網 干 貴 子	
第 6 号 委 員	渡 辺 絵理子	
第 7 号 委 員	矢 作 清	
第 8 号 委 員	高 橋 正 敏	
第 8 号 委 員	富 樫 整	

【参考】①第1号委員：学長が指名する理事

②第2号委員：担当理事が指名する理事特別補佐

③第3号委員：各学部長が推薦する当該学部の副学部長 各1人

④第4号委員：各学部から選出された（女性）教員 各1人

⑤第5号委員：学士課程基盤教育機構から選出された（女性）教員 1人

⑥第6号委員：総務部長

⑦第7号委員：企画部長

⑧第8号委員：その他委員長が必要と認めた者

⑨第4号及び第5号委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

令和元年度第1回男女共同参画推進委員会議事

令和元年5月16日（木）14：30～15：30

法人本部4階第2会議室（医・工・農テレビ会議室）

1 協議事項

- (1) 令和元年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画
 - ② 男女共同参画セミナー
 - ③ 英語論文セミナー
- (2) 「男女共同参画基本計画」に関する年度評価及び計画の見直しについて
今後の対応について
- (3) 第2次男女共同参画基本計画（案）について
 - ① 男女共同参画に係るアンケート結果について
 - ② 策定計画について
- (4) その他

2 報告事項

- (1) 男女共同参画推進委員会規程、室員・委員・スタッフ名簿
- (2) 平成30年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
 - ④ 研究支援員制度について
- (3) リカレント教育に関するアンケート調査について
- (4) 「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師・パンフレットについて
- (5) 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画について
- (6) 女性活躍推進法に基づく行動計画について
- (7) 「山形大学教職員のための出産・子育て・介護に関する制度」の改訂について

令和元年度第2回男女共同参画推進委員会議事

令和元年9月3日（火）15：30～16：30

法人本部4階第2会議室（医・工・農テレビ会議室）

1 協議事項

- (1) 策定プロセスについて
- (2) 男女共同参画基本計画（第2次）案について
 - ① WGにおける検討過程
 - ② 男女共同参画基本計画（第2次）案
 - ③ 男女共同参画推進委員会規程の改正
 - ④ 各部局教授会の教育研究評議会報告における補足説明及び意見報告のお願い
- (3) その他

令和元年度第3回男女共同参画推進委員会議事

令和元年11月29日（金）15：30～16：30

法人本部4階第2会議室（医・工・農テレビ会議室）

1 協議事項

- (1) 男女共同参画基本計画（第2次）策定について
 - ① 各部局からの意見
 - ② 男女共同参画基本計画（第2次）案
 - ③ パンフレット案
- (2) 男女共同参画推進に関する規程の改正案について
- (3) その他
 - ① 第2次基本計画の関連スケジュールについて
 - ② 基本計画に関する各キャンパスの行動計画について
 - ③ その他
- (4) 令和元年度「山形大学男女共同参画基本計画」に関する評価及び計画の見直し（各部局）

①-3 | 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事

平成31年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
室 長	阿 部 宏 慈	理事（総務担当）
副 室 長	久 保 田 功	理事（研究担当）
理 事 特 別 補 佐	河 野 銀 子	教授（地域教育文化学部）
主担当教員（チーフ・コーディネーター）	井 上 榮 子	准教授（男女共同参画推進室）
主担当教員（サブ・コーディネーター）	藤 村 維 子	准教授（男女共同参画推進室）
室 員	矢 作 清	総務部長
室 員	鈴 木 俊 之	総務部労務課長
室 員	柏 倉 弘 喜	企画部副課長
室 員	石 山 博 子	男女共同参画推進室事務室長

第1回男女共同参画推進室ミーティング議事

平成31年4月19日（金）13：30～14：30

法人本部役員会議室（3階）

1 協議事項

- （1）平成31年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画
 - ② 男女共同参画セミナー
 - ③ 英語論文セミナー
- （2）「男女共同参画基本計画」に関する年度評価及び計画の見直しについて
今後の対応について
- （3）第2次男女共同参画基本計画（案）について
 - ① 男女共同参画に係るアンケート結果について
 - ② 策定計画について
- （4）その他

2 報告事項

- （1）平成31年度山形大学男女共同参画推進委員会規程、室員・委員・スタッフ
- （2）平成30年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
 - ④ 研究支援員制度について
- （3）リカレント教育に関するアンケート調査について
- （4）「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師・パンフレットについて
- （5）女性活躍推進法に基づく行動計画について
- （6）次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画について
- （7）「山形大学教職員のための出産・子育て・介護に関する制度」の改訂について

①-4 | 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事

平成31年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
分 室 長	阿 部 宏 慈	理事（総務担当）
副 分 室 長	飯 塚 博	工学部長
主担当教員（チーフ・コーディネーター）	井 上 榮 子	准教授（男女共同参画推進室）
主担当教員（サブ・コーディネーター）	藤 村 維 子	准教授（男女共同参画推進室）
副 担 当 教 員	野々村 美 宗	工学部副学部長
副 担 当 教 員	高 澤 由 美	助教（大学院理工学研究科）
副 担 当 教 員	皆 川 真 規	助教（大学院理工学研究科）
室 員	金 生 周 篤	工学部事務部長
室 員	篠 塚 清 幸	工学部総務課長
室 員	石 山 博 子	米沢分室事務室長

第8回男女共同参画推進室米沢分室会議議事

令和2年2月10日（月）12:00～13:15

工学部事務棟2階ミーティングルーム

議 題

I 報告事項

- 1 令和元年度工学部の女性研究者採用状況について
- 2 令和元年度ダイバーシティ事業の進捗状況について
- 3 ダイバーシティ事業の最終年度の進め方について
- 4 その他

II 打合せ事項

- 1 令和2年度米沢分室体制と米沢分室
- 2 令和2年度のダイバーシティ事業について
 - (1) 令和2年度事業計画について
 - (2) ダイバーシティ規程の改廃
 - (3) 女性研究者の目標達成と今後について
- 3 その他

①-5 | 男女共同参画基本計画(第2次)の策定

1 経緯

山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画（実施期間は令和元年度まで）により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきた。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきた。

平成30年度は、男女共同参画推進委員会内にワーキンググループ（座長は河野銀子委員）を設置し、男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果と課題を明らかにするために、「男女共同参画に係るアンケート調査」を実施した。

今年度は、「男女共同参画に係るアンケート調査」結果などを踏まえて、男女共同参画基本計画（第2次）を策定する必要がある。

2 男女共同参画基本計画（第2次）の策定について

（1）男女共同参画委員会を3回開催する。

第1回（5月）計画の承認

第2回（9月）検討

第3回（11月）基本計画（第2次）の策定

（2）ワーキンググループを男女共同参画委員会内に設置する。

① 構成は、教員（4名程度）、職員（総務・労務・企画等3名程度）とする。

② 座長は、理事特別補佐（河野銀子委員）が務める。

③ 事務局は、男女共同参画推進室に置く。

④ 3回打合せ（持ち回り会議を含む）を行い、原案を男女共同参画委員会に報告する。

（3）スケジュール

令和元年

5月16日 第1回男女共同参画推進委員会の開催…計画の承認

6月13日 ワーキンググループ（1回目）…これまでの経緯の共有と策定方針の検討

6月27日 意見募集〆切

7月10～31日 ワーキンググループ（2回目、メール審議）…計画案の検討

8月9～23日 ワーキンググループ（3回目、メール審議）…計画案の修正

9月3日 第2回男女共同参画推進委員会の開催…計画案の検討

9月11日 教育研究評議会

9月18日 各部局教授会にて評議員が基本計画案の報告、意見を集約

10月3日 男女共同参画推進会の委員が意見を提出（〆切）

10月25日 ワーキンググループ（4回目）…修正案の検討

11月29日 第3回男女共同参画推進委員会の開催…基本計画（第2次）の策定

山形大学男女共同参画推進に関する規程（改正案）の報告

12月18日 役員会 令和元年度基本計画に関する評価及び計画の見直し（各部局）依頼

- 1月8日 教育研究評議会
 - 1月27日 経営協議会
 - 3月中旬 男女共同参画基本計画(第2次)のパンフレット印刷
 - 3月24日 令和2年度男女共同参画推進委員会委員推薦(各キャンパス)報告
 - 3月24日 令和元年度基本計画に関する評価及び計画の見直し(各部局)報告
- 令和2年
- 4月1日～ 男女共同参画基本計画(第2次)実施
「山形大学男女共同参画推進に関する規程」施行

3 男女共同参画基本計画(第2次)の内容について

改正後の主な内容(抜粋)を、以下に示す。

山形大学男女共同参画基本計画(第2次)

(令和2年4月施行)

はじめに

山形大学は、山形大学男女共同参画基本計画(平成22年)のもと、地域に根ざし世界を目指す大学として、多様な価値観に基づく教育・研究を推進し、「男女共同参画」の実現された大学となるように、取組を進めてきた。

「女性活躍加速のための重点方針2018」以降、男女の役割に対する固定的な価値観を与える、いわゆる「無意識のバイアス」への対応が求められており、男女共同参画およびダイバーシティを一層推進していく必要がある。そのため、ここに山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を定める。

基本方針

男女共同参画及びダイバーシティ推進のため、以下のことに取り組む。

1. 教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
3. 意見・要望等をくみ上げ、共有するシステムの整備
4. 意識改革の促進
5. 女性研究者の裾野拡大
6. 教育・研究の充実
7. 学内の調査・分析・統計等の情報提供
8. 地域社会等との連携

推進体制

基本計画の実施に当たっては、学長のリーダーシップの下、男女共同参画推進委員会が決定し、全学の推進組織である男女共同参画推進室と各キャンパスの推進組織とが連携協力し、一体となって具体的な事業を推進する。

計画期間

基本計画の計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10ヶ年とする。

具体的施策（行動計画）

1. 教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正
 - ・令和11年度までに、大学全体の教授の女性比率は15%以上、准教授は23%以上、女性教員比率は20%以上の達成を目指す。
 - ・役員、副学長、部局長、経営協議会委員、教育研究評議会評議員は、20%以上の達成を目指す。
 - ・女性教職員の人材育成のため積極的な方策を推進し、管理職比率の向上に向けた登用等を積極的に行う。
 - ・無意識のバイアスに配慮し、積極的な改善策がとられているかを点検するなど、男女格差是正のためのチェック機能を導入する。
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
 - ・ユビキタス・ワーキングを可能にする環境を整備する。
 - ・男女共同参画の実現を目的とする相談体制、研究継続支援員及び学会出張時の支援体制を整備する。
 - ・保育制度と育児・介護支援を充実し、就労環境・就労慣行の見直しを図る。
3. 意見・要望等をくみ上げ、共有するシステムの整備
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関する施策の策定や実施に関する意見や要望を積極的にくみ上げ、情報を共有し、相互に協力して対応するシステムを整備する。
4. 意識改革の促進
 - ・個々の性別、性的指向・性自認にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れられる組織を目指す。
 - ・シンポジウムやセミナー等を開催し、学内外へ情報発信する。
 - ・女性研究者ネットワークを構築し、学長・学部長と女性研究者との懇談会を開催する。
5. 女性研究者の裾野拡大
 - ・女子中高生向けのセミナー・交流会等を開催する。
 - ・女性学生の研究活動の活性化に向けたネットワーク活動を支援する。
6. 教育・研究の充実
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関連する授業や女性のキャリア支援教育科目を拡充し、優れた取組に対する表彰制度を設ける。
7. 学内の調査・分析・統計等の情報提供
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関するアンケート及び調査を定期的実施し、基本的データを公表する。
8. 地域社会等との連携
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関して他大学や地域の自治体等とのネットワークを築き、連携を図る。

①-6 | 男女共同参画推進室活動記録

- 4月19日 男女共同参画推進室ミーティングの開催
- 4月25日 大学コンソーシアムやまがた臨時幹事会の開催
- 5月16日 第1回男女共同参画推進委員会の開催
- 5月17日 工学部女性研究者ランチミーティングの開催
- 5月24日 大学コンソーシアムやまがた第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議の開催
- 6月3日 全国ダイバーシティネットワーク組織臨時幹事会の開催
- 6月6日 「英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー」の開催
- 6月13日 第2次基本計画ワーキンググループ打合せ（テレビ会議）
- 6月24日 大学コンソーシアムやまがた総会の開催
- 6月25日 男女共同参画フェスタ（パネル展）の開催（～7/8）
- 6月26日 令和元年度後期「研究支援員制度」利用者の募集開始
- 6月26日 小白川キャンパス保育所運営委員会の開催
- 7月5日 小白川キャンパスで男女共同参画セミナー「ダイバーシティが拓く山形の未来」開催
ダイバーシティ連携推進会議及び東北ブロック南東北会議の開催
- 7月12日 米沢キャンパスで男女共同参画フェスタ（パネル展）開催（～7/19）
- 7月19日 山大JOIN（山形大学女性大学院生ネットワーク）お茶会開催（米沢分室）
- 7月28日 農学部女性研究者裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ？研究者になりたい！～卒業生の体験談を聞いてみよう～」の開催
- 7月31日 国立大学協会「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査（第16回）」の回答
- 8月3日 地域教育文化学部女性研究者裾野拡大セミナー「比べてみよう！～日本と海外における化学の勉強～」及び工学部女性研究者裾野拡大セミナー「女性研究者裾野拡大セミナー2019 in 山大工学部」の開催
- 8月28日 第2回地域連携プラットフォーム会議「小野川のまちづくり」の開催
- 8月31日 山形大学男女共同参画推進室ニュースレター（第25号）の発行
- 9月2日 小白川キャンパス「男女共同参画推進研修会」の開催
- 9月2日 自己啓発合宿3 機関合同若手研究者のための第1回キャリア形成研修（～9/3）
- 9月3日 第2回男女共同参画推進委員会の開催
- 9月11日 交換留学（大学からDNPへ）（～9/13）
- 10月2日 理学部女性研究者裾野拡大セミナー（高校1年生向）「理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内」（高校2年生向）「理学部研究室訪問」の開催
- 10月25日 第2次基本計画ワーキンググループ打合せ（テレビ会議）
- 11月6日 小白川キャンパス「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 11月19日 3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会をめざして」の開催
- 11月21日 「博士」学位を目指すキャリア・就活セミナー

- 11月25日 交換留学（DNPから大学へ）（～11/27）
 〃 山大JOIN（女性大学院生グループ）との交流会の開催
- 11月29日 第3回男女共同参画推進委員会の開催
- 12月6日 全国ダイバーシティネットワーク組織第2回幹事会・シンポジウム（一橋会館）の開催
- 12月13日 「山形大学男女共同基本計画」に関する評価及び課題についての各部局への依頼
- 12月23日 令和2年度前期「研究支援員制度」利用者の募集開始
- 1月18日 センター試験における乳幼児の一時預かり実施（保育所「のびのび」開所）
- 1月19日 センター試験における乳幼児の一時預かり実施（保育所「のびのび」開所）
- 1月21日 農学部「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 2月10日 第8回男女共同参画推進室米沢分室会議の開催
 〃 工学部「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 2月27日 自己啓発合宿3機関合同若手研究者のための第2回キャリア形成研修（～2/28）（延期）
- 2月28日 山形大学男女共同参画推進室ニュースレター（第26号）の発行
- 3月30日 令和元年度男女共同参画推進室報告書の発行

② 活動報告

②-1 | 意識改革

(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会

山形大学では、ワーク・ライフ・バランスについて、教職員等から意見を聴き、その実現に向けて様々な支援制度を検討し実施してきた。昨年度に引き続き、小白川キャンパスで研修会も開催された。令和元年度の懇談会の実施状況は、次のとおりである。

●ワーク・ライフ・バランス懇談会

学部名	テーマ	日 時	対象者	参加数
小白川キャンパス (理学部担当)	「一人ひとりのワーク・ライフ・バランス」 ～バランスすることの意味を考えてみませんか～	11月6日(水) 14:00～16:00	教職員	32人
	(株)キャリア開発サポートズ・浅野氏から話題提供の後、グループワークが行われた。人生役割の配分について、現在と10年後について数値化しどこが重要なのか等、ワーク・ライフ・バランスについて意見交換を行った。			
鶴岡キャンパス (農学部担当)	働きやすい職場環境を実現するためのワークライフバランス	1月21日(火) 14:00～15:00	教職員	16人
	ワークライフバランスの実現に向けて、教職員の誰もが働きやすく、研究者は研究しやすい環境づくりを行うことをめざし、日頃感じていること、要望等、率直な意見交換を行った。			
米沢キャンパス (工学部担当)	「男性教職員・男子学生が多い米沢キャンパスにおける男女共同参画」～女性・男性が教育・研究に没頭できる環境実現に向けて～	2月10日(月) 13:30～14:15	教職員	20人
	1) 男女共同参画推進室・井上准教授「工学部における男女共同参画実現に向けての課題」 2) 工学部システム創成工学科・宮助教「教育・研究者として日頃感じていること」 3) 学生相談室・中澤准教授「学生相談室教員として感じていること」 以上3名の発表に基づいて、参加者を交えて日頃感じていることなど意見交換を行った。			



図1 懇談会の様子(11月6日)



図2 懇談会の様子(1月21日)



図3 懇談会の様子(2月10日)

●男女共同参画推進研修会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
小白川キャンパス (地域教育 文化学部担当)	第1部【講演会】山形市の学校におけるLGBTへの対応について 第2部【研修会】大学におけるLGBT対応～違いを理解し、認め合う教育・研究をめざして～	9月2日(月) 10:00~12:00	小白川キャンパス及び 大学コンソーシアム やまがた所属大学の教職員	37人
第1部では、山形市男女共同参画センター所長・草苺氏及び山形市教育委員会学校教育課指導主事・澤村氏から、山形市における男女共同参画の取組及び山形市の学校におけるLGBT対応について講演いただいた。第2部では、男女共同参画推進室の井上准教授から山形大学におけるLGBT対応の現状報告があり、その後グループワークで情報交換を行い有意義な研修会となった。				

●FD・SD研修会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
米沢キャンパス	「多様な学生が、生き活きとした学生生活を送るために」～LGBTQ+などの性的個性の理解と対応～	11月26日(火) 13:30~16:30	米沢・鶴岡各キャンパス及びコンソーシアム	25人
鶴岡キャンパス		11月28日(木) 15:30~16:30	やまがた所属大学の教職員	30人
ハラスメント防止対策・ハラスメント相談を専門とし、NPO等で性に関する様々な悩みを抱える学生の支援にあたられてきた大学院理工学研究科担当の中澤准教授から、多様な学生への配慮についてわかりやすく講演いただき、多様な性的個性を持つ学生と接するための知識を得る機会となった。				



図4 研修会の様子(9月2日)



図5 研修会の様子(9月2日)



図6 研修会の様子(11月26日)



図7 研修会の様子(11月28日)

(2) 男女共同参画フェスタ (パネル展示)

例年6月に開催される内閣府の「男女共同参画週間」に合わせて、男女共同参画フェスタを開催している。令和元年度は、男女共同参画セミナーの開催とともに、女性研究者シーズの紹介パネルを中心にパネル展示を行った。平成28年度より開始したLGBT(性的少数者)への理解を促すことを目的としたパネル展示も内容を改訂し、継続して実施した。

【日 時】 小白川 令和元年6月25日(火)から7月8日(月)
米 沢 令和元年7月12日(金)から7月19日(金)

【場 所】

＜パネル展示＞ 小白川 学生会館1階
米 沢 4号館1階 大示範教室前廊下周辺

【内 容】 女性研究者シーズの紹介、LGBTに関するポスター展示、山形大学の取り組み及びダイバーシティ事業の紹介ポスターの展示

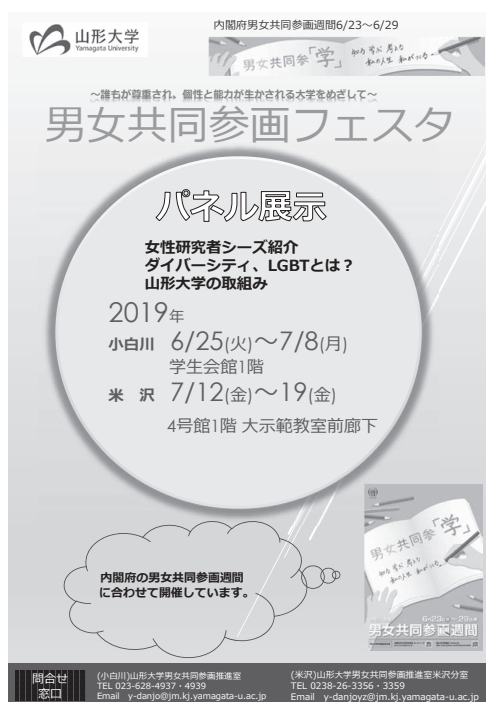


図1 チラシ



図2 パネル展示 (小白川キャンパス)

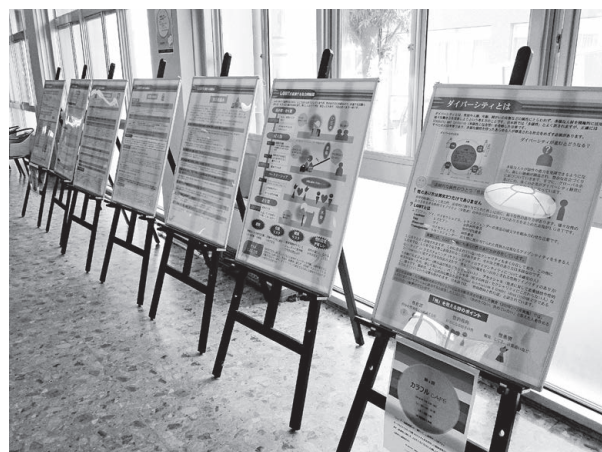


図3 パネル展示 (小白川キャンパス)

②-2 | 仕事と育児等との両立支援

(1) 小白川キャンパス保育所のびのび

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員（以下「職員等」という）が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の2割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児が対象。
3	利用定員	30人（地域枠6名以内）
4	保育時間	基本保育：7時30分から18時30分まで 延長保育：18時30分から20時30分まで 一時保育：7時30分から20時30分までの間 大学入試センター試験等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日（ただし、大学入試センター試験及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。） (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育：0歳児 37,100円/月、1歳児 37,000円/月、 2歳児 45,000円/月、3歳以上 30,000円/月 延長保育：1時間300円 一時保育：3歳児未満 1時間400円 3歳児以上 1時間300円 一日につき給食費 376円・おやつ代 75円（希望がある場合） 大学入試センター試験日及び学力検査等：1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する事業所内保育所で民間委託。
8	開所時期	平成26年4月1日

●幼児教育・保育の無償化の実施に伴う保育料の改正について（令和元年10月1日～）

保育区分	保育料（*1）	
基本保育	1月につき	【0歳児】 32,600円
	〃	【1歳児】 32,500円
	〃	【2歳児】 40,500円
	〃	【3歳児以上】 25,500円
		【0歳～就学前】給食費・おやつ代 4,500円
延長保育	1時間につき	300円
一時保育 *定員に余裕がある場合のみ	1時間につき	【3歳児未満】 400円
	〃	【3歳児以上】 300円
		【0歳～就学前】一日につき 給食費 361円・おやつ代 75円（希望がある場合）

(*1) 給食費・おやつ代及び実費分（*2）を除いた保育料のみ無償化の対象になる。一旦、保護者が保育料の全額を大学に支払い、その後市へ請求を行うことで支払った金額の全部又は一部が支給される「償還払い」方式により行う。

(*2) 利用者が負担することが適当と認められる費用（日用品やイベント費用など）を実費徴収する場合がある。

●利用状況

<入所者数>（ ）は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
平成30年3月	12人（4人）	12人（3人）	24人（7人）
平成31年3月	13人（2人）	4人（1人）	17人（3人）
令和2年3月	12人（4人）	4人（1人）	16人（5人）

●教育研究への対応

保育所が大学の施設である関係から、保育所利用規程の目的に保育研究等に資する環境を整えることも含まれている。そのため、教育研究活動に関する取扱要領を制定し、日常保育の中の可能な範囲で教育研究に対応している。

(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員（以下「職員等」という）が養育する生後57日から満1歳までの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の4割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から満1歳までの乳幼児が対象。
3	利用定員	10人（地域枠4名以内）
4	保育時間	基本保育：7時30分から18時30分まで 延長保育：18時30分から20時30分まで 一時保育：7時30分から20時30分までの間 大学入試センター試験等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日（ただし、大学入試センター試験及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。） (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育：0歳児 37,100円/月、1歳児 37,000円/月 延長保育：1時間 300円 一時保育：1時間 400円 一日につき給食費 376円・おやつ代 75円（希望がある場合） 大学入試センター試験日及び学力検査等：1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する企業主導型保育所。運営は民間委託。
8	開所時期	平成30年9月1日

●幼児教育・保育の無償化の実施に伴う保育料の改正について（令和元年10月1日～）

保育区分	無償化対象とならない児童の保育料	無償化対象となる児童の保育料
基本保育	1月につき 【0歳】 37,100円 " 【1歳】 37,000円	1月につき 【0歳】 0円 " 【1歳】 0円
延長保育	1時間につき 300円	1時間につき 300円
一時保育	1時間につき 400円 一日につき給食費361円・おやつ代75円 (希望がある場合)	1時間につき 400円 一日につき給食費361円・おやつ代75円 (希望がある場合)

●利用状況

<入所者数> () は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳児	1歳児	計
平成31年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)
令和2年3月	10人(3人)	0人(0人)	10人(3人)

(3) 医学部保育所すくすく

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番
2	利用対象者	山形大学医学部、山形大学医学部附属病院及び大学院医学系研究科職員が養育する産後休暇明けから小学校就学の始期に達するまでの子どもを対象。ただし、入所定員に余裕がある場合、終夜保育を除き、山形大学の他学部等所属職員及び学生の子どもも対象とする。
3	利用定員	40人（0～1歳については、20人を上限とする。）
4	保育時間	基本保育：7時00分から18時30分 延長保育：6時00分7時00分 及び 18時30分から20時30分 終夜保育：18時30分から翌日の7時00分 一時保育：終日
5	休所日	12月29日から翌年の1月3日まで
6	保育料	基本保育：3歳未満 45,000円/月、3歳以上30,000円/月 延長保育：1時間につき 300円 終夜保育：1回につき 1,000円 一時保育：2時間につき 500円
7	運営形態	児童福祉法の認可外保育施設とし、運営は民間委託
8	開所時期	平成19年1月9日

●利用状況

<入所者数> *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
平成30年3月	3人	37人	40人
平成31年3月	7人	32人	39人
令和2年3月	9人	22人	31人

(4) 医学部病児保育室

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番（山形大学医学部管理棟1階 正面玄関北側）
2	利用対象者	本学に所属する職員の子ども（生後6か月から小学6年生までの子どもで、急性感染症や慢性疾患に伴い、当面、症状の急変は認められないが、病気の回復に至っていないことから集団保育が困難で、かつ、保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な子ども）を対象とする。
3	利用定員	3人（生後6か月から小学6年生まで）
4	利用日時	平日の7時30分から18時00分
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用料	保育料1日 500円、半日（5時間未満） 300円 昼食代（年齢、月齢に合わせた離乳食か幼児食等、補食（おやつ）を含む） 無償
7	開所時期	平成29年1月4日

●利用状況

期 間	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	計
平成29年度（4月～3月）	22人	77人	76人	55人	230人
平成30年度（4月～3月）	28人	110人	48人	127人	313人
令和元年度（4月～12月）	37人	56人	41人	84人	218人

(5) 荘内銀行キッズワールドあゆみ

●概要

1	所在地	鶴岡市本町1丁目3-43 荘内銀行内
2	利用対象者	山形大学農学部の役職員及び学生が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。
3	利用定員	20人（空き定員の範囲内）
4	利用日時	7時30分から19時30分（延長保育なし、土日は両親ともに仕事の場合は開所する。）
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用開始時期	平成30年4月1日

●利用状況

	0～1歳児	2歳児以上	計
平成31年3月	0人	0人	0人
令和2年3月	0人	0人	0人

（6）託児サポーター制度（学童の一時預かり）

仕事と育児の両立を可能にする環境整備の1つとして、平成21年12月に開始した制度であり、託児サポーター（研修を修了した学生）が保育士の指導のもとで保育を行う。

平成26年4月からは小白川キャンパス保育所が開所し、生後6か月から就学前の子どもの一時預かりは保育所で行うことができるため、小白川キャンパスにおいては本制度の利用は学童に限られる。保育所が設置されていない米沢キャンパスにおいては、平成28年度からダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業の一環として、幼児を含む一時預かりを実施している。

<過去3年度分の利用者状況> ※米沢キャンパス利用分を含む

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用教職員数	9人	4人	4人
託児子ども数	13人	6人	5人
年間延べ利用回数	7回	4回	3回
年間延べ利用時間	36.75時間	39.9時間	27.5時間
実働託児サポーター数	7人	1人	0人

※令和元年度利用実績は、2月末時点のもの。

（7）研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度

①研究継続支援員制度

出産、育児、介護等により十分な研究時間を確保することが困難な研究者（性別問わず）に「研究継続支援員」を配置し、継続して研究を行うことができるような環境を提供する。

<過去3年度分の利用者状況>

		利用者数	支援員数	支援時間数
平成29年度	前期	13人（3人）	13人	2,876時間
	後期	16人（4人）	16人	3,747時間
平成30年度	前期	18人（2人）	16人	2,393時間
	後期	21人（4人）	23人	1,995時間
令和元年度	前期	21人（5人）	23人	2,024時間
	後期	19人（9人）	21人	1,740時間

（ ）は男性利用者内数

②学会参加時の保育支援制度

平成24年4月より女性研究者の研究と育児の両立を支援するため、「学会出張時の保育支援制度」を実施した。教職員だけでなく博士後期課程学生も利用できることから、「学会参加時の保育支援制度」と名称を改めた。また、平成26年度から男性研究者についても支援対象としている。

(8) 相談制度

ワーク・ライフ・バランスの改善に向けて、平成25年度より対象を女性研究者から全教職員、大学院生（博士前期課程を除く）及びポストドクターに拡充して相談員による巡回相談を実施してきた。

相談件数は少なくなってきたことから、平成30年度より男女共同参画推進室が相談窓口（LGBTも含む）になっている。

②-3 | 女性研究者の裾野拡大

(1) 女性研究者裾野拡大セミナー

【農学部】

「農学部ってどんなところ？研究者になりたい！」～卒業生の体験談を聞いてみよう～

日 時：令和元年7月28日（日）11：00～12：00

会 場：農学部3号館302講義室

講 師：網干貴子氏（農学部・准教授）

参加人数：女子高校生（40人程度）とその保護者

内 容：

- 1 農学部における女子卒業生の就職状況の説明
- 2 農学部の女子卒業生の講演
- 3 農学部の女子卒業生と女子高校生との質疑応答

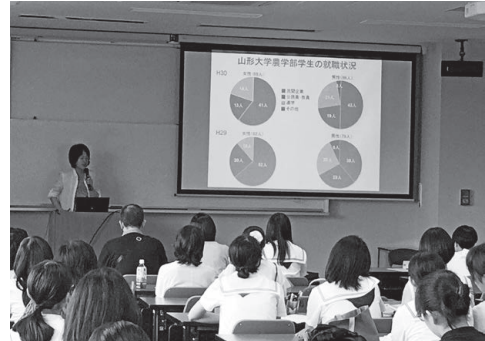


図1 会場の様子

本セミナーの事前告知として、農学部HPへの掲載及び山形県内の高校への郵送案内を行なった。事前申込み者は昨年度より5名少ない19名であったが、オープンキャンパス当日に参加者へ直接呼びかけた他、「学科・コース説明会」の後にアナウンスを実施した結果、昨年とほぼ同等の参加者を確保することができた。

研究職に就くと実際にどんな仕事に携わるのかについて、体験談を聞くことで大学卒業後の進路を具体的にイメージすることができ、アンケートには「農学系は幅広い職業に関連していると感じ、視野が広がった」といった感想もあった。

オープンキャンパスと同時開催のため、積極的な情報獲得や将来設計に意欲のある多くの女子高生の参加を得ることができた。昨年度から引き続き受講している学生もおり、次年度以降も、農学部において、本形式でのセミナーを引き続き実施していきたい。

【地域教育文化学部】

「比べてみよう！～日本と海外における化学の勉強～」

日 時：令和元年8月3日（土）

会 場：基盤教育2号館213

講 師：中西 正樹氏（地域教育文化学部・教授）

参加人数：高校生14人（男性7人・女性7人）＋保護者3人

内 容：

講師自身のキャリア形成を紹介した後、化学に関する講義を行った。講師自身の体験を伝えることを通して、将来研究者を目指す高校生が増えるきっかけ作りとした。（講演者：地域教育文化学部 後藤みな講師）

本講義では、「海外ではどのように化学を勉強するのか？日本と比べたとき、勉強する内容や学び方にどんな違いがあるのか？」など、日本と海外における化学の勉強について、参加者と一緒に比べてみた。また、講師自身が研究者になろうと思ったきっかけや、これまでの道のりなどについて

も紹介した。

オープンキャンパス時に行ったため、幅広い高校からの参加を得ることができた。広報の仕方をより工夫することで、参加者増につなげることができると考えられるので、来年度以降継続する際は検討事項としたい。

【工学部】

女性研究者裾野拡大セミナー2019 in 山大工学部

日 時：令和元年8月3日（土）第1部10：00～11：45 第2部13：00～15：30

会 場：工学部100周年記念館セミナー室

講 師：黒谷玲子氏（工学部・准教授）

参加人数：高校生5人(男性0人・女性5人)+保護者3人

内 容：

I部：将来への希望や不安を話し合う

II部：実際の大学生活について紹介

研究室見学など…

高校生、大学生、大学院生ともそれぞれの立場で同じように将来（就職）などに不安をもっていることが理解できた。午前の部の学生による発表では、勉強も友人づくりも、全てにおいて積極的に自ら行動をしなければいけないこと、大学では多くのチャンスがあることについて高校生に伝えていた。高校生は、工学部は男子ばかりではないことも理解できたようである。セミナー最後の感想では、勉強を頑張りたいという意見が多く、本学学生からは、夢を実現するために努力し続けたいという意見が多かった。

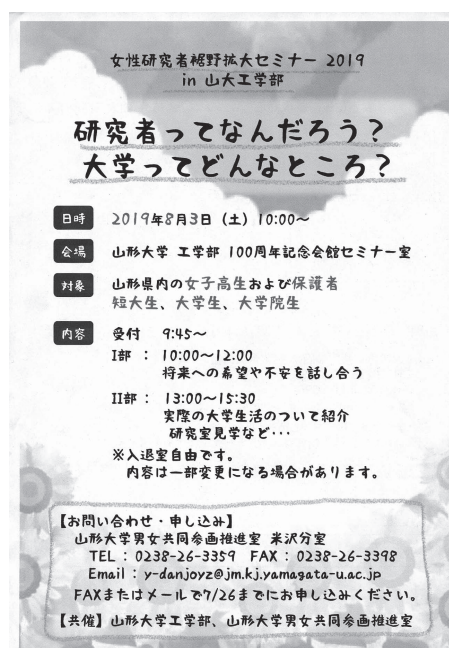


図1 チラシ

【理学部】

(高校1年生向)・理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内

(高校2年生向)・理学部研究室訪問

日 時：令和元年10月2日（水）

会 場：理学部1号館14番講義室等

講 師：金井塚勝彦氏（理学部・教授）

参加人数：123人（男性0人・女性123人（1年生70人、2年生53人））

内 容：

理学部での研究・教育について、将来女性研究者になる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的及び方法は以下のとおり。

（高校1年生向）

- ① 理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
…理学部の女子在学生からの各分野の紹介。（研究、教育、女子学生の在籍率、卒業生の進路等）
- ② 在学生、女性研究者の生の声を聞き、直接対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ③ 質疑応答
…小グループに分かれての懇談。時間で区切り、全分野の在学生と懇談できるよう配慮。

（高校2年生向）

- 各コースで希望学生を受入れ、コース案内、研究室訪問、実験・模擬授業を行う。
詳細な内容は、コースにより異なる。

（高校1年生向）

理学部各分野（数理学、物理学、化学、生物学、地球環境科学）の女子学生より教育・研究の紹介を行った後、グループに分かれて懇談会を行い、理学部の女子学生・女性研究者の生の声を聞いてもらった。

高校生が抱く「理学部ではどのような教育・研究が行われているの?」「女性比率はどれくらい?」「卒業後はどのような職業に就くの?」「大学や就職先において男女差はあるの?」といった一般的な疑問について分かりやすく説明。懇談会では、皆笑顔で質疑応答が行われ、和気あいあいとした雰囲気だった。参加者からは、視野が広がり、理系や山形大学理学部に対する認識が改まったといった感想が多く寄せられた。

(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク

次世代育成・裾野拡大事業として、女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークを平成30年度に設立し、2年目となる今年度も、キャリア形成を支援すべく活動を行った。

【名称】山形大学女性大学院生ネットワーク

(略称「山大JOIN」)

【対象】山形大学女性大学院生

【登録人数】女性大学院生11名

(令和2年1月末現在)

【活動内容】

・JOIN交流会

7月19日、新規メンバーを交えた交流会を山形大学工学部で開催した。交流会では、山大JOINのメンバーが、自己紹介ならびに研究紹介を行った他、山形大学の男女共同参画とダイバーシティ推進の取組について推進室スタッフから紹介を受けた。さらに、今後のネットワーク活動へ期待することや要望について、話し合った。

・企業研究者との交流会

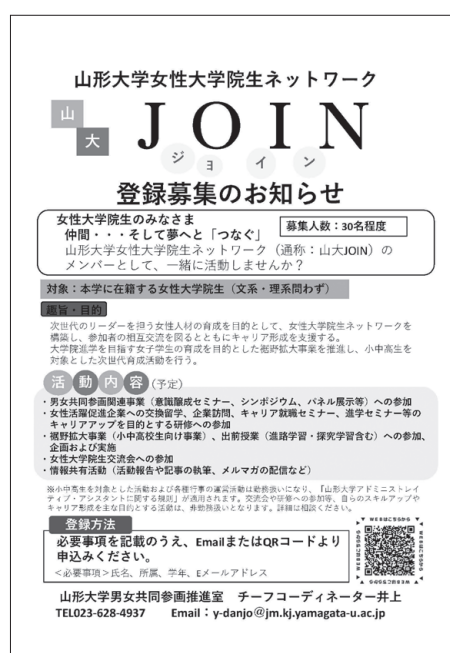
11月25日～27日に実施された交換留学（企業から大学へ）の期間に合わせて、大日本印刷株式会社研究開発センターに所属する女性研究者との交流会を山形大学工学部で開催した。企業の研究環境や就職について様々な話を聞いたり意見交換をする貴重な機会となった。（※詳細については、71頁「JOIN交流会」を参照）

・COI若手研究者および女性研究者との交流会

男女共同参画シンポジウム第二部（11月19日開催）の中で、女性研究者研究成果発表会として、COI若手研究者や女性研究者らとの交流会を開催した。（※詳細については、70頁「女性研究者研究成果発表会」を参照）

・セミナーでの補助活動

管理職セミナーおよびシンポジウムにて、山大JOINメンバーが補助スタッフとして活躍した。



山形大学女性大学院生ネットワーク
山大 JOIN
登録募集のお知らせ

女性大学院生のみならず
仲間・そして夢へと「つなぐ」
山形大学女性大学院生ネットワーク（通称：山大JOIN）の
メンバーとして、一緒に活動しませんか？

募集人数：30名程度

対象：本学に在籍する女性大学院生（文系・理系問わず）

【活動目的】
次世代のリーダーを担う女性人材の育成を目的として、女性大学院生ネットワークを構築し、参加者の相互交流を図るとともにキャリア形成を支援する。大学院進学を目指す女子学生の育成を目的とした裾野拡大事業を推進し、小中高生を対象とした次世代育成活動を行う。

【活動内容（予定）】
・男女共同参画関連事業（意識醸成セミナー、シンポジウム、パネル展示等）への参加
・女性活躍促進企業への交換留学、企業訪問、キャリア就職セミナー、進学セミナー等のキャリアアップを目的とする研修への参加
・裾野拡大事業（小中高校生向け事業）、出前授業（進路学習・探究学習含む）への参加、企画および実施
・女性大学院生交流会への参加
・情報共有活動（活動報告や記事の執筆、メルマガの配信など）

※小中高生を対象とした活動および各種行事の運営活動は厳禁扱いになり、「山形大学アドミニストレーティブ・アシスタントに就く等」が厳禁となります。学内安全や学業への影響が、自身のキャリア形成を主な目的とする活動は、勇断断絶いたします。詳細は相談ください。

【登録方法】
必要事項を記載のうえ、EmailまたはQRコードより申込みください。
<必要事項>氏名、所属、学年、メールアドレス

山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター井上
TEL023-628-4937 Email: y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 チラシ

(3) 令和元年度基盤教育・ジェンダー関連授業

令和元年度基盤共通教育「キャリア形成とワークライフバランス」（山形から考える）

1 テーマ

- (1) 自らのキャリア・ビジョンを描くため、多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義を通じて、男女が共に仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を保てる働き方についての考えを深める。
- (2) 21世紀日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」とはどのような社会で、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

2 講師一覧（敬称略）

授業時間割 後期 水曜日7校時（14：40～16：10）

	月 日	講師名	プロフィール等
1	10月30日	小倉 泰憲 学術研究院教授 (理学部)	学生や産業現場で働く人のキャリアを研究。大学で音響工学を学び、企業でエンジニアとして働いた。その後、社会人大学院で心理学を学び、山形大学教授に転職。
2	11月6日	畔柳まゆみ 学術研究院准教授 (地域教育文化学部)	山形県内小学校養護教諭として28年間勤務。その後、山形県立特別支援学校教頭を経て、2018年4月より本職。専門は養護実践、健康相談活動。
3	11月27日	杉野 誠 学術研究院准教授 (人文社会科学部)	専門は環境経済学。地球温暖化対策の制度設計に関する経済分析を行っている。静岡生まれ、アメリカ育ち。鎌倉市から6年前に移住。
4	12月4日	高澤 由美 学術研究院助教 (理工学研究科)	専門は都市計画、地域政策。サステナブルな地域づくりについて、景観や観光、ネットワーク形成など多様なアプローチで研究活動を行う。
5	12月11日	井上 純人 医学部附属病院 第一内科病院教授	呼吸器内科医長として診療、研究、教育を行う。2010年、2013年医学部ベストティーチャー最優秀賞、2014年山形大学優秀教員賞受賞。日本呼吸器学会男女共同参画委員。
6	12月18日	木村 直子 学術研究院教授 (農学部)	農学部卒→食品会社へ就職（研究所勤務）→大学院博士課程→任期付き研究員→大学教員で、現在に至る。専門は、動物生殖学、動物生殖工学。
7	1月15日	山本美奈子 学術研究院准教授 (学士課程基盤教育機構)	専門はキャリア心理学、組織心理学。キャリアデザインやインターンシップの授業を担当。結婚し、子供を育て仕事と両立しながら大学院に進学、学位を取得。

3 受講した学生の感想

- ・人生100年時代になる中、今までと働き方・生き方が変化していくということを改めて考えさせられた。これからの時代は不安定で予測不能な時代に入っていくので、自分の頭で考えて、自分自身の未来をつくっていくことが大切だと思った。
- ・今までは、キャリア形成と聞くと、一度しかないから失敗できないと緊張していたが、多段階に分けて考えると、失敗しても次につなげていけばいいと前向きに考えることができた。
- ・「周りとは合わせないと浮いてしまう」という排他意識への恐怖を振り払って、手を挙げて自分の言葉で、自分の考えを立派に述べられるような人間になりたいと思っている。この授業が終わるまでに、より多くの質問や意見を述べられるように訓練できたらと思った。

- ・仕事、帰宅時間に制限を設けることで、仕事の効率や段取りをする力・精選力を上げたこと、複数の役割を担うことが活性化させ、精神的健康を高めるという点に非常に納得した。夫婦間の満足度の話聞き、将来結婚して子どもができて、しっかりとパートナーの負担を減らし、満足度を上げられるように努めたいと思った。
- ・三世代同居が日本で一番多い山形県での体験談を聞き、三世代同居のメリット・デメリットと、家族の役割について学ぶことができた。また、自分の将来や共働きで大切なことについて考えることができ、良い機会になった
- ・仕事を決める上で、「なぜ働くのか」、「どこで働くのか」という価値観を大切にしていきたいと思った。アメリカと日本の文化の違いを聞くことができて良かった。
- ・この講義を通して、「山形で働くのもいいな」と思った。子どもとの時間、自然環境などを考えると、山形は子育てに打って付けだと感じた。今まで、都会から山形へ転職する利点を生の声で聞いた事がなかったので、とても参考になり、おもしろかった。
- ・将来家庭を持った時、妻が仕事を続けたいと考えていたら応援しようと思っていた。しかし、今回の講義でまだまだ考えが足りないことに気付いた。もし自分の仕事の都合で転勤しなくてはならなくなったら、子育てが忙しくなったなどと想定したことが無かった。夫としての役割を考えていきたい。
- ・普段知ることができないリアルな医療の事情を知ることができた。また、「大学1年生のときにしかできないことを本気でやりなさい」というお話を伺い、自分は入学してからだらだらと時間を過ごしていると感じ、これを機にサークル活動や課外活動に力を入れようと思った。
- ・「今を大事にすること」「何かを好きになること」という点がためになった。先生のハードなスケジュールを知り、自分がどれほど楽をしているかがよく分かった。自分の中で課題の解決策が見えたので本当に良かった。
- ・企業の研究者の仕事について詳しく聞くことができて参考になった。私は漠然と研究者になりたいと考えていたが、研究者の中でも種類があり、問題もあることを知り、もう一度真剣に考えようと思った。また、「二つの道があったらチャレンジする道を選ぶこと」は不安かもしれないが、頑張ろうと思った。
- ・キャリアサポートセンターやキャリアカフェが山大にあることを知ることができ、利用したいと思った。仕事をしながらでも大学院で学ぶことができること、本当に学びたいことがあれば学び直すことができることがわかった。自分をコントロールし、行動を変えるため、心理学に興味を持った。
- ・山形の女性は力強くパワーがあると仰っていたが、先生もパワーと信念があると思った。仕事と育児と学びを両立するのは並大抵のことではないが、課題の解決法を何としても見つける力を尊敬した。

4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、「『キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）』探究ノート」を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。

②-4 | アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	①ダイバーシティ推進ネットワーク会議 ・第1回日時：令和元年5月24日（金）（議長：井上榮子准教授） ・第2回男女共同参画推進状況アンケート調査 5月～7月 ・第2回日時：令和元年11月14日（木）調査報告・次年度計画など 持ち回り会議（議長：井上榮子准教授） ②「男女共同参画セミナー」の共催 日時：令和元年7月5日（金） 内容：ダイバーシティが拓く山形の未来
山形大学COI	①山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）運営会議 （女性活躍担当：井上榮子准教授） 日時：令和元年5月22日（水） ②6月17日（月）JST拠点面談（米沢）で報告（井上榮子准教授） 日時：令和元年6月17日（月） ③山形大学COI共催（工学部11号館未来ホール） 第2回地域連携プラットフォーム～小野川のまちづくり～の開催 日時：令和元年8月28日（水） ④山形大学COI共催（工学部11号館未来ホール） 3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会を目指して」 「COI若手研究者・女性研究者成果発表会および交流会」を開催 日時：令和元年11月19日（火） ⑤山形大学COI運営会議への出席（井上榮子准教授） 日時：令和2年1月14日（火） ⑥JST拠点面談（東京）に参加（井上榮子准教授） 日時：1月20日（月）
山形県男女共同参画センター チェリア	①チェリアフェスティバル実行委員会 日時：令和元年8月24日（土）（井上榮子准教授） ②チェリアフェスティバル山形2018 日時：令和元年9月29日（日）文翔館（井上榮子准教授） 内容：山形大学の取組みについて（展示）
山形市企画調整部 男女共同参画センター	①山形市男女共同参画審議会（会長：井上榮子准教授） 日時：第1回令和元年5月29日（水） 内容：事業報告、平成30年度事業計画、進捗状況報告書 ②男女共同参画に関する作品審査会 令和元年8月30日（金） ③男女共同参画に関する作品表彰式 令和元年10月26日（土） ④山形市男女共同参画審議会（会長：井上榮子准教授） 日時：第2回令和2年2月21日（金）
山形市男女共同参画センター ファアラ	・ファアラ大学（講師） 日時：令和元年6月11日（火）井上榮子准教授 内容：「世界から見た日本の男女共同参画」
長井市 地域づくり推進課	①長井市男女共同参画推進審議会（会長：井上榮子准教授） ・第1回日時：令和元年10月11日（金） ・第2回日時：令和元年12月24日（火） ②置賜地域男女共同参画講座実行委員会① 令和元年11月28日（木） 実行委員会② 令和2年1月24日（金） ③置賜地域男女共同参画講座 令和2年2月15日（土） ～みんなで育てあうまち～個性を楽しみながら

機 関 等	連 携 内 容
全国ダイバーシティ ネットワーク組織	①全国ネットワーク組織・臨時幹事会（井上榮子准教授） 日時：令和元年6月3日（月） 大阪大学 内容：今年度の取組、実施体制、予算の基本方針、ウェブサイトについて ②第2回幹事会・シンポジウム（阿部宏慈理事、井上榮子准教授） 日時：令和元年12月6日（金） 東京 内容：幹事会、シンポジウム（講演会、各ブロック活動報告）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議幹事会（阿部宏慈理事、井上榮子准教授） 日時：第1回令和元年10月3日（木） 東北大学 内容：平成30年度事業計画 ②東北ブロック勉強会（阿部宏慈理事、井上榮子准教授、藤村維子准教授） 日時：第1回令和元年10月3日（木） 内容：「無意識のバイアスとダイバーシティレポート制度について」 （岩手大学） ③東北ブロック勉強会（阿部宏慈理事、井上榮子准教授、藤村維子准教授） 日時：第2回令和2年2月25日（火） 内容：「大学のジェンダー平等政策をいかに評価するか —アメリカ・イギリス・ドイツの先進事例から—」 （大阪市立大学）
福島大学	・東北ブロック会議の参加大学についての説明（井上榮子准教授） 日時：令和元年6月19日（水）
山形県男女共同参画課	・やまがた女性活躍応援連絡協議会 日時：令和2年2月17日（月）

②-5 | 広報活動等

【ニュースレター】

第25号（2019年8月発行）

第26号（2020年2月発行）

【ホームページ】

ホームページの更新を平均月1回行い、学内外の情報に関わらず、利用者に有益と思われる情報を提供し、さらにセミナー等への参加や制度利用の促進に努めた。

また、階層が深くたどりにくかった小白川保育所のページを新たに開設した。

【パネル展での広報】

（1）米沢市男女共同参画パネル展

米沢市からの要請を受けて、本学作成のLGBTの紹介パネルを米沢市の男女参画パネル展にて展示を行った。本学のLGBTの取組みを広く紹介する機会となった。

日 時：令和元年11月11日（月）～22日（金）

場 所：ナセBAオープンギャラリー

（2）山形大学男女参画フェスタにおけるパネル展

令和元年6～7月実施の男女参画フェスタにて、女性研究者シーズ紹介及び今年度改訂したLGBTパネルの展示を行った。他に山形大学の取組の紹介、ダイバーシティ事業の紹介のパネル展示やセミナーのチラシの配布を行った。（※男女参画フェスタの詳細は、23頁参照のこと）

（3）山形県男女共同参画センター チェリアフェスティバル山形2019

本学の取組みの一部として、LGBTの紹介パネル（改訂版）を展示した。

日 時：令和元年9月29日（日）9：00～16：00

場 所：文翔館

テーマ：「あなたと私違いを力に変えていく」

【新聞等による報道】

令和元年10月13日 山形新聞 2面掲載

「健康長寿社会へ 山形大などシンポ 米沢で来月」

山形大、DNP、県立米沢栄養大による合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会をめざして」が11月19日午後1時半から、山形大米沢キャンパスで開催され、講演はNPO法人うま味インフォメーションセンターの二宮くみ子理事が健康長寿につながる食生活について語ることが紹介された。